

史 跡 齋 宮 跡

平成14年度現状変更緊急発掘調査報告

平成16(2004)年3月

明 和 町

序

史跡斎宮跡は、137.1haに及ぶ貴重な国民的遺産であり、どのようにしてこれを保護・保存し、活用しながら後世に受け継いでいくかが大きな課題となっております。

斎宮跡も史跡指定から25年経過いたしました。その間、地元地権者の協力を得ながら発掘調査や土地の買上げ、三重県による史跡整備等も順調に進み、町も見学者に対しての施設をできる限り整備してまいりました。また、斎宮歴史博物館では、4月に映像展示をリニューアルし、最新鋭の音響映像システムによりさらに魅力的なものとなっております。今後はこれらの施設を利用して、さらに斎宮を多くの人に知ってもらうための啓発や活用について工夫を計っていきたくと考えております。

また、史跡整備について史跡中央から西部にかけては、ほぼ完了したと考えております。更なるステップとして史跡東部に平安時代最も栄えていた斎宮の実物大建物復元の整備事業が早期実現するよう地元の協力を得ながら国・県に働きかけていきたいと考えています。

また、一方で史跡内に約600世帯の住民が生活している特殊性から、生活に結びつく史跡現状変更等許可申請書が数多く提出されます。

この報告書は、平成14年度に39件提出された申請の中で事前発掘調査が必要であった22件の結果についてまとめたものです。

現状変更に伴う調査は、第138-5次調査のように比較的まとまったものや浄化槽のような非常に小さなもの、水道管布設のように幅0.4mと狭くて長いものなど規模は様々ですが、調査箇所は広い史跡内を点在しており、計画調査では得られない貴重な資料を与えてくれるものであり、成果の積み重ねが斎宮跡を解き明かすものと思っています。

最後になりましたが、発掘調査にご理解とご協力いただきました地元地権者のみなさま、また、発掘調査から報告書作成に至るまでご協力いただいた斎宮歴史博物館調査研究グループの方々に対してここに厚くお礼申し上げます。

平成 16 (2004) 年3月

三重県多気郡明和町

町長 木戸口 眞澄

例 言

- 1 本書は、平成14（2002）年度に明和町が実施した史跡斎宮跡（三重県多気郡明和町斎宮・竹川地内）の現状変更緊急発掘調査結果をまとめたものである。
- 2 本書に掲載した調査のうち、第138-6、12~14、22次調査の5件は公共事業として事業者（明和町）が費用負担したが、それ以外については国庫および県費の補助金を受けて実施したものである。
- 3 調査は明和町が主体となり、斎宮歴史博物館および明和町斎宮跡課が現地調査を担当した。
- 4 調査地区名の表示方法（例；6AL8）については、『史跡斎宮跡平成13年度発掘調査概報』（斎宮歴史博物館 2003年）による。
- 5 遺構の平面図は、過年度の調査成果との整合を図るため、測地成果2000施行以前の旧国土座標第VI系に相当する座標系を用いて表現している。
- 6 遺構の時期区分については、『斎宮跡発掘調査報告』I（斎宮歴史博物館 2001年）を基準とした。
- 7 遺構冒頭の略記号は見た目の形態から以下のように表記した。
SA；柱列 SB；掘立柱建物 SD；溝 SE；井戸 SK；土坑
SH；竪穴住居 SZ；落ち込みほか
- 8 遺物の実測図は、実物の4分の1に縮小しての表示を基本とし、詳細図が必要と判断したものは2分の1で表示した。
- 9 調査資料類は、斎宮歴史博物館で一括保管している。
- 10 本書の作成は、伊藤裕偉（斎宮歴史博物館調査研究グループ）および中野敦夫（明和町斎宮跡課）が行い、執筆は、伊藤・中野のほか、当該年度の担当者であった泉雄二・水橋公恵があたった。

目 次

I	前 言	1
II	調査報告	
1	第138-1次調査	2
2	第138-2次調査	2
3	第138-3次調査	3
4	第138-4次調査	4
5	第138-5次調査	4
6	第138-6次調査	5
7	第138-7次調査	6
8	第138-8次調査	6
9	第138-9次調査	6
10	第138-10次調査	7
11	第138-11次調査	7
12	第138-12次調査	7
13	第138-13次調査	8
14	第138-14次調査	8
15	第138-15次調査	8
16	第138-16次調査	9
17	第138-17次調査	9
18	第138-18次調査	9
19	第138-19次調査	10
20	第138-20次調査	10
21	第138-21次調査	11
22	第138-22次調査	11
付編	史跡現状変更等許可申請	18

表・挿図目次

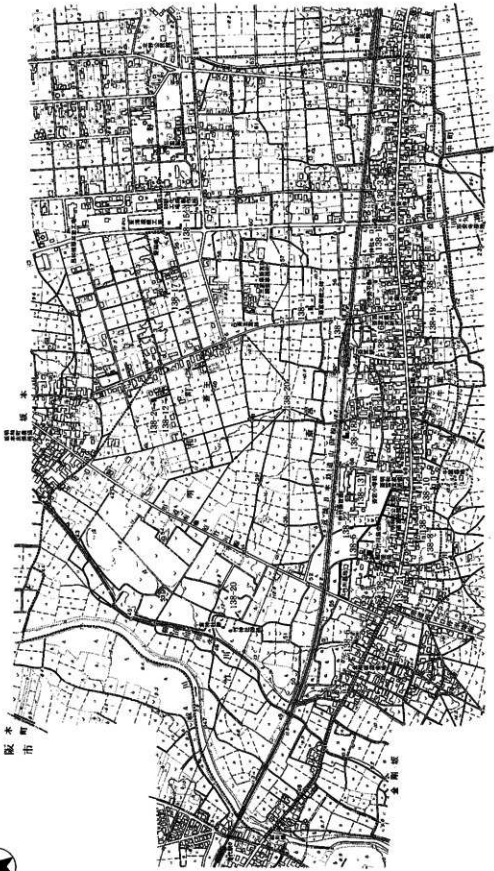
[表]	1 史跡現状変更等許可申請の推移	1
	2 第138次調査 遺構一覧表	12
	3 第138次調査 掘立柱建物一覧	12
	4 第138次調査 出土遺物観察表	17
	5 平成14年度現状変更等許可申請一覧表	19
[図]	1 史跡地内発掘調査地位位置図	
	2 調査区位置図① 138-1・3・9・11次調査(1:4,000)	2
	3 調査区位置図② 138-2・12次調査(1:4,000)	3
	4 調査区位置図③ 138-4～6・8・10・13・21・22次調査(1:4,000)	4
	5 調査区位置図④ 138-7・13・14・16・19次調査(1:4,000)	6
	6 調査区位置図⑤ 138-15・17次調査(1:4,000)	8
	7 調査区位置図⑥ 138-20次調査(1:6,000)	10
	8 第138次調査区遺構図①(平面図1:200、土層断面図1:100)	13
	9 第138-2・12次調査平面図(1:200) 土層断面図(1:100)	14
	10 第138次調査区遺構図②(平面図1:200、土層断面図1:100)	15
	11 第138次調査区出土遺物(1:4、27のみ1:2)	16

写真図版

1	第138-2次調査	上:調査区全景(北から)	下:調査区北部(南から)
2	第138-2・5次調査	上:2次調査S D2505土層(西から)	下:5次調査北区全景(北から)
3	第138-5次調査	上:調査区全景(北西から)	下:調査S H8706(東から)
4	第138-5・9次調査	上:5次調査南区(北から)	下:9次調査区全景(南西から)
5	第138-10・11次調査	上:10次調査土層(北東から)	下:11次調査全景(北東から)
6	第138-13・14次調査	上:13次調査区全景(東から)	下:14次調査区全景(西から)
7	第138-15次調査	上:調査区全景(西から)	下:調査区南部(東から)
8	第138-18次調査	上:調査区南部(北東から)	下:調査S D8722土層(北から)



松
阪
市



松
阪
市



第一圖 片寄地方界圖調查地位圖

I 前 言

奇宮跡は平成14年度で史跡指定後24年を経過する。この間、例年50件程度の調査目的以外での現状変更許可申請が出されている。平成14年度は39件で、ほぼ例年並の件数であった。その内訳は道路・側溝改修、上水道の改修、個人住居の新築・増改築、農地の地盤改良などがある。

近年の特長として、阪神淡路大震災や、将来発生が予想されている東海地震への対応のために、耐震構造を備えた住宅の建設が目立ってきている。個人の財産を守る行為として、このような設備充実は当然ながら必要であるし、そういった行為を行政上も認めていかなければならない。ただ、当該事業が史跡地内で実施された場合、下部遺構の保護という文化財保護行政側の課題とは、究極の部分で相容れないものとならざるを得ない。国民共有財産としての史跡という側面と、住民生活空間としての史跡地内という二つの側面を、今後どのように両立させていくのか、非常に難しい課題である。より良い両立を目指すべく今後もさらに努力しなければならない。

史跡地内個人住宅の浄化槽設置については、当該年度も多く申請があった。開発行為が遺構面まで達する事例が多い。しかし、計画調査がほとんどなされていない集落密集地における調査となることが多いため、小規模ではあってもその調査記録は極めて重要である。当該年度も、方格地割側溝を確認したものや、新たな区画の存在を示すようなものなど、いくつかの重要な成果が見られる。

なお、平成13年度からは奇宮の調査に際して地区名称呼称を国土座標系の100m角で大地区設定とする方法としている。史跡内の座標系については、測地成果2000施行以前の基準を用い、30年来の成果と照合できるようにし、測地成果2000との関係については、別途対照図を設けることで対応した。（伊藤裕偉）

年度	現状変更申請数	発掘調査件数	調査面積(m ²)	うち補助金調査件数	同調査面積(m ²)
昭和54	33	17	3,968	12	996
55	60	12	1,281	10	815
56	53	12	5,416	10	696
57	50	8	857	7	577
58	52	16	3,757	10	1,440
59	30	15	2,884	12	1,589
60	39	8	1,260	5	1,014
61	54	12	1,845	9	1,507
62	57	16	2,854	13	1,620
63	46	17	8,820	7	1,131
平成元	57	16	7,091	9	1,061
2	58	8	1,397	5	914
3	46	3	1,550	1	1,190
4	41	6	895	5	825
5	48	8	1,670	6	1,090
6	35	6	1,360	4	1,032
7	39	2	587	1	480
8	47	6	709	4	613
9	39	6	832	2	452
10	28	4	882	2	396
11	37	8	816	3	186
12	42	10	512	8	469
13	38	14	439	5	409
14	39	22	760	4	304
計	1,068	252	52,242	154	20,806

第1表 史跡現状変更許可申請の推移

Ⅱ 調査報告

1 第138-1次調査 (6 A S12)

調査場所 多気郡明和町斎宮字中西2755 (第2図)

原因 浄化槽設置

調査期間 平成14年4月15日

調査面積 9㎡

概況) 個人住宅の浄化槽設置に伴い調査した。現在の竹神社東方約20mの地点である。

遺構と遺物) 調査区の層位は、上からコンクリート・碎石・盛土である。現地表面から約0.7mの深さで遺構面に達した。遺構面は黄灰色系土(地山)で、標高約10.1mである。遺物包含層は認められなかった。遺構は、西壁沿いに確認した溝S D8696がある。幅40cm以上、深さ20cmである。埋土は大半が上方の盛土と同質であるが、最下層の10cm程は地山ブロックの混じる暗褐色粘質土である。埋土内からは土師器片が1点出土した。

小結) 溝S D8696は、斎宮方格地割のうち、牛葉東ブロックの東部を限る区画溝(道路側溝)と考えられる。この溝は、今回の調査区とは近鉄線を挟んで北側で実施された第44次調査区検出の溝S D2660と一連のものと考えられる。(水橋・伊藤)

2 第138-2次調査 (6 A N 6・N 7)

調査場所 多気郡明和町斎宮字篠林3143-1、3143-3 (第3図)

原因 住宅新築

調査期間 平成14年4月23日～4月30日

調査面積 74㎡

概況) 個人住宅の新築工事に伴い、住宅敷地に東接する部分を調査した。この付近では、南部の個人住宅敷地内での調査(第76-13次)が実施されている。

調査区の層位は、表土下に褐色系土があり、北部ではその下にさらに黒色土(黒ボク)の堆積が数cm認められる。南部では、黒ボクが見られない一方、表土下に褐色系土の遺物包含層が30cm前後見られる。遺構面は黄灰色系土(地山)で、標高約10.4mである。

調査は、住宅地に隣接する箇所を面調査で、住宅地に引き込まれる導排水管設置箇所をトレンチ調査で行った。トレンチ部分のうち、南半部分については、現状変更による掘削が浅いため、途中の遺物包含層で調査を止めている。

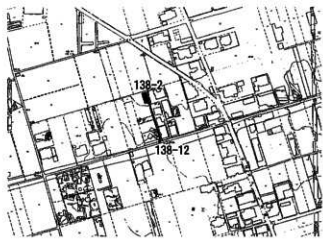
なお、この調査区は狹路であったため、グリット設定は任意で行っている。そのため、斎宮の地区表示方法のうち、大地区は整合しているものの、小地区(グリット)は整合していない。遺構) 奈良・平安時代の遺構は、掘立柱建物S B8701、溝S D8698・8699、およびピットがあり、近



第2図 調査区位置図① 138-1-3-9-11次調査(1:4,000)

世の遺構は溝SD2505がある。

S B8701はE2°Sを主軸とする東西棟の側柱建物と考えた。柱掘形は長辺約80cm・短辺約40cmの長方形である。掘形間を溝状の掘削によって接続しており、いわゆる「布掘」状の形状となっている。北西隅の柱穴は溝SD2505と重複するが、この柱穴掘形は東に突出する形態であることから建物北西隅の柱穴と考えた。そして、南側柱列の一部が調査区内で見られた溝状遺構と考えると、南北が2間となるので、東西棟の建物としておく。この復元では、東西1間(2.4m)以上・南北2間(4.0m)となり、南北の柱間は約2.0mである。出土遺物は少ないが、概ね奈良時代後半頃の遺構と考えられる。



第3図 調査区位置図② 138-2・12次調査(1:4,000)

SD2505は、調査区北部で検出した遺構である。掘削の幅員は約3.8mで、幅約1.8mの範囲がとくに深く掘られ、最も深いところで検出面から約2.3mある。埋土は、第4～9層中に拳大の礫を多量に含んでおり、最下層部が自然埋没した後に、人為的に一気に埋められたものと考えられる。第7層付近からの出土遺物から、18世紀頃に埋没しているものと考えられる。

遺物) 奈良時代～近世にかけての遺物があるが、量は多くない。近世の溝SD2505からは、鎌倉時代以降の遺物が出土しているが、埋土最下層付近でも18世紀頃の遺物が見られる。第11図4は土師器甕で、b9グリットpit1から出土した。奈良時代後半頃のものと考えられる。

小結) 奈良時代の範疇と考えられるS B8701は、柱穴掘形が布掘状を呈する特殊な掘立柱建物であり、この近隣に当該時期の重要施設の存在を窺わせる。方格地割形成以前の当調査区周辺部を積極的に評価していく必要を感じる。

SD2505は、史跡北縁部分を弧状に巡る、「鎌倉大溝」と通称される遺構である。ただし、今回の調査では、埋土内から近世の遺物が出土しており、埋没は近世である。「鎌倉大溝」は、近世の「ユウゼン堀」伝承との共通性が指摘されており、今回の調査結果はそれを支持する。「鎌倉大溝」を前身とし、近世に再掘削された可能性が高い。近世の灌漑水路については、三重県内では嬉野町天花寺の三郷井の調査事例がある(三重県埋蔵文化財センター「天花寺北瀬古遺跡(第1次)・薬師寺北裏遺跡発掘調査報告」1999年)。飢饉が深刻になる18世紀代に、各地で灌漑水路開削の動きがあることにも注意をする必要がある。(伊藤)

3 第138-3次調査(6AT12)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字中西2738(第2図)

原因 住宅改築

調査期間 平成14年4月18日

調査面積 4.5㎡

概況) 個人住宅の新築工事に伴い、浄化槽の新設する部分について、事前の立会い調査を行ったものである。調査の範囲は、浄化槽埋設部分の東西約3.7m、南北1.4mである。

遺構) 基本的な層位は上から碎石・盛土があり、現地表面から約0.8mの深さで地山に達した。遺構包含層は認められなかった。確認した遺構は、溝SD8702で、幅約1.3m、深さ約40cmである。埋土は2層に分層でき、上層は暗褐色粘質土、下層は地山ブロックの混じる褐色粘質土である。溝の上層部から斎宮II期前半と考えられる土師器杯片が出土した。

小結) 位置関係から見て、今回の調査地からは斎宮方格地割鍛冶山西ブロックの南辺を区切る区画溝(道

路側溝)が存在すると予想されたが、まさに想定された位置で確認することができた。鍛冶山西ブロックの南辺区画溝の確認事例は、今回を含めて2例しか無く、今後同様な事例を積み重ねることで、より一層緻密な検討が可能になると考える。
(水橋・伊藤)

4 第138-4次調査 (6AK13)

調査場所 多気郡明和町竹川字南裏256-3 (第4図)

原因 浄化槽設置

調査期間 平成14年5月13日

調査面積 2.5㎡

概況) 合併浄化槽を設置する部分について、立会い調査を行ったものである。調査の範囲は、浄化槽埋設部分の東西約1.16m、南北2.15mである。

遺構・遺物) 層位は、上からコンクリート・盛土があり、現地表面から約0.75mの深さで地山に達した。中央から北側にかけては溝状に落ち込み、厚さ10cm弱の白色粘土層が認められた。落ち込みの深さは最大約15cmほど。遺構・遺物ともに認められなかった。
(水橋)

5 第138-5次調査 (6AJ12)

調査場所 多気郡明和町竹川字東裏227-3 (第4図)

原因 プレハブ建物建築等(竹川自治会)

調査期間 平成14年6月11日～7月9日

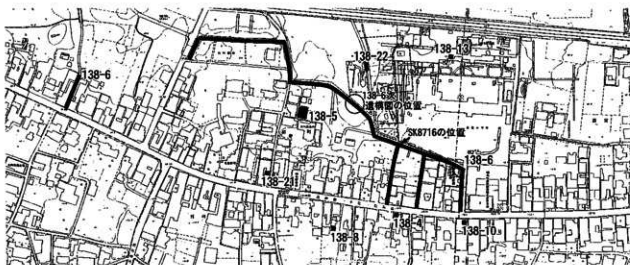
調査面積 125.3㎡

概況) 竹川公民館の改修工事に伴い、仮設集会所建設用地を調査した。この敷地は、近世竹川村の寺院である還愚院が所在していた場所にあたる。

北側調査区では、表土直下に還愚院跡関係と考えられる瓦類が堆積した層にあたる。中世の遺構面は基本的に存在せず、表土下約65cmで奈良・平安時代の遺構検出面にあたる。奈良・平安時代の遺構面は、10cm弱の薄い黒色土(黒ボク)上で、実際の検出はその下部である黄褐色系粘質土(地山)で行った。

南側調査区では、表土(碎石)の直下から30cmほどの厚さで近世の整地土層が3層ほど存在する。その下は黒色土(黒ボク)となる。遺構検出面は、北側調査区よりもやや暗い暗赤灰色粘質土(地山)で、地表から約55cmのところである。

遺構) 奈良・平安時代の遺構としては、竪穴住居SH8706、掘立柱建物SB8713・8714、土坑8707・8710などがある。竪穴住居SH8706は一辺約5.3mの方形で、北部は近世遺構により破壊されているが、それ



第4図 調査区位置図③ 138-4～6・8・10・13・21・22次調査(1:4,000)

以外の遺存は極めて良好である。周囲には良好な壁周溝を伴い、中央付近には貼床が認められる。北部の近世遺構埋土内には、この竪穴住居に伴うと考えられる焼土塊があり、北辺部に造付けカマドを有する建物と考えられる。出土遺物は少なく時期の特定が難しいが、概ね奈良時代の範疇で把握できると考えられる。

掘立柱建物S B8713・8714も、北部を近世遺構により破壊されており、南辺部を中心に確認できたとどまる。ピットは一辺約50cmの略長方形を呈する。

近世の遺構として、溝S D8703・8708・8709などがある。調査区北部を東西に横切るS D8703は、基本的には溝なのであるが、北東部の角に見られるように一部不定型な状況を示している。本来の溝を利用するかたちで、埋没段階において新たな掘削を行った結果かと考えられる。東端部で深さを確認したところ、第4層面からの深さが約80cmであることがわかった。埋土内からは、18世紀代を中心とした土師器・陶器・瓦などが出土している。

遺物) 第11図18～27が当調査区からの出土遺物である。18は竪穴住居8706から出土した土師器杯Gで、奈良時代前半期のもと考えられる。

19～27は溝S D8703から出土した遺物。19は瀬戸本業焼の播鉢で、18世紀代のもの。20～23は近世南伊勢系の土師器小皿類。18世紀代においても皿類に法量と形態の区分が存在していることがわかる。20には油煙痕が見られ、燈明皿として用いられたものと考えられる。24・25は軒丸瓦で、25の丸瓦部凹面にはコビキ痕が見られる。還愚院に用いられていたものであろう。なお、瓦はこの他に、軒棧瓦や垂木瓦などもある。26は常滑産の陶製筒で、外面にはタガを模した装飾が見られる。27は石硯片を利用したもので、より小形の硯を作ろうとしたものと考えられる。S D8703出土の土器類は、概ね18世紀後半頃のものと考えられる。

小結) 第138-5次調査区では、奈良時代頃と考えられる竪穴住居と掘立柱建物を確認した。奈良時代の竪穴住居は、史跡西側の古里地区近隣で多く確認されている。今回の調査区は古里地区を中心とした竪穴住居群の南東縁辺付近ではないか考えられる。

またこの地は、江戸時代に還愚院が建立されていた場所であり、今回の調査でも寺院関連と考えられる遺物が見られた。史跡地内の旧参宮街道沿いの調査で、江戸時代の遺構・遺物がまとも出土する機会が多い。今後はこれらも資料化することで、斎宮寮消滅以後の状況も観察していく必要があろう。

(伊藤)

6 第138-6次調査 (6AH11～K13)

調査場所 多気郡明和町竹川字東裏・中垣内地内 (第4図)

原因 水道管改修

調査期間 平成14年7月5日～9月27日

調査面積 360㎡

概況) 既設水道管の改修工事に伴う調査である。調査区周辺は、斎宮小学校に関係した現状変更以外では、あまり調査が行われていない箇所にあたる。

遺構) 奈良時代と思われる土坑S K8715を確認した。また、近世の土坑S K8716があり、埋土中から多くの土師器類が出土した。

遺物) 第11図8～17は、土坑S K8716から出土した土器類で、いずれも近世南伊勢系の土師器である。8～10は小皿類。11は茶釜。12・13は焙烙である。概ね18世紀頃のものと考えられる。14～17は鐙が付くもので羽釜形をなすが、鐙部の突出が小さく、あまり用をなさない。口縁端部の形状は、14・15は突出する面をなし、16・17は突出しない面をなすものである。これらは全体として、18世紀代としか言えないが、先述のS D8703 (第138-5次) 出土土器よりは新しいものと考えられる。

小結) 遺構は、近隣の調査で見られるように、奈良時代のものが見られた。遺物では、近世後期の短鐙羽釜が目できる。これらは調整手法や素地粘土の状況から見て近世南伊勢系土師器であることは間違

いないが、近世の短鋤羽釜に関するまとまった出土例はこれまでに報告されていない。当地が南伊勢系土師器生産地近隣であることも含め、近世における南伊勢系土師器の展開を考えるうえで、重要な一環といえよう。(伊藤)

7 第138-7次調査(6A011・P11)

調査場所 多気郡明和町斎宮字内山3020-1、3045-3(第5図)

原因 支線設置

調査期間 平成14年6月17日

調査面積 1.5㎡

概況) 今回の調査は、近鉄斎宮駅構内において、通信用鉄柱の支線設置にかかるものである。調査は、アンカー設置部分の東西約1.3m、南北約0.6mを2ヶ所で行なった。

遺構・遺物) 層位は、西側では上から表土・地山似盛土・礫を多く含む盛土、東側で表土・盛土・黒色土であり、現地表面から約0.8~0.9mの深さで地山に達した。西側調査区でピット3基が検出された。遺物としては土師器片が出土した。(水橋)

8 第138-8次調査(6AK13)

調査場所 多気郡明和町竹川字南裏249(第4図)

原因 住宅建設

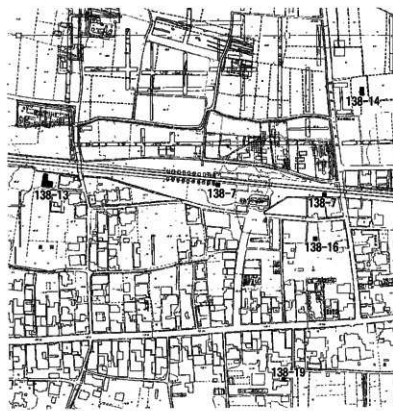
調査期間 平成14年6月21日

調査面積 5.1㎡

概況) 旧参宮街道の南側にあたり、個人住宅の改修に伴う浄化槽設置である。工事前の標高は約13.3mである。

遺構と遺物) 表土直下から-130cmの間は近現代に整地された盛土である。その下にあたる工事開削範囲の-180cmまでは、近世の大形土坑で、東側にその方の一部が見えた。埋土内からは18世紀頃の陶器・土師器類が出土した。

小結) 街道に面した近世の屋敷地において、大形土坑は敷地の裏側に開削される傾向がある。(三重県埋蔵文化財センター『鳴抜』Ⅱ 2000年)おそらくは敷地の裏側にゴミ捨て場として開削されたものであろう。今回の事例もそのひとつと考えられる。(伊藤)



第5図 調査区位置図④ 138-7・13-14・16・19次調査(1:4,000)

9 第138-9次調査

(6AT13)

調査場所 多気郡明和町斎宮字中西603(第2図)

原因 浄化槽設置

調査期間 平成14年7月12日

調査面積 7.0㎡

概況) 史跡東部の旧参宮街道沿い

である。個人住宅の浄化槽設置に伴い、その閉削範囲内を立会調査した。現況は個人住宅の敷地内で、標高約9.8m、盛り土がなされている場所である。

遺構と遺物 調査地は、表土下約50cmで地山（段丘礫層、礫混じり黄褐色粘土）に達する。調査区北部で近世の浅い土坑を確認したにとどまる。出土遺物は、近世と考えられる土器片が少量認められたに止まる。
(伊藤)

10 第138-10次調査（6AK13）

調査場所 多気郡明和町竹川字南裏259（第4図）

原因 浄化槽設置

調査期間 平成14年7月19日

調査面積 3.4㎡

概況 史跡中央部の旧参宮街道沿いである。個人住宅の浄化槽設置に伴い、その閉削範囲内を立会調査した。現況は個人住宅の敷地内で、盛り土がなされており、現在の標高は約13.3mである。

遺構と遺物 調査地は、表土下約1.4mで地山（白黄色粘土）に達する。調査区の中央部で東西に走る溝SD8719を検出した。幅約0.9m、遺構面からの深さ約0.5mで、断面逆台形を呈している。形態が明確であるため、何らかの区画溝である可能性が高い。出土遺物が無いため、明確な時期は不明であるが、これまでの調査成果から遺構の状態を見る限り、平安時代末期以前のもと考えてよいと思われる。

小結 溝SD8719の位置は、史跡東部に広がる方格地割のうち、南1列目方格地割の北辺道路側溝想定位置の延長線上に相当する。このため、この調査成果からは、方格地割がこの付近にまで何らかの影響を与えている可能性を考慮する必要がある。
(伊藤)

11 第138-11次調査（6AQ13）

調査場所 多気郡明和町斎宮字牛葉330-1（第2図）

原因 住宅建設

調査期間 平成14年7月29日

調査面積 3.9㎡

概況 史跡東部の旧参宮街道からやや南に入った地点である。個人住宅の浄化槽設置に伴い、その閉削範囲内を立会調査した。現況は個人住宅の敷地内で、盛り土がなされている。

遺構と遺物 調査地は、住宅新築に伴う盛り土が約50cmされている。旧表土面からは約50cmで地山（黄灰色粘土）に達する。調査区西部で一辺約1.3mの方形の掘形を呈する井戸と思われる遺構SE8720を検出した。深さは、検出面から約1.0mまでは掘削を行ったが、それ以上は今回の開発による影響が及ばないために掘削していない。出土遺物は平安時代の土器片が含まれているが、遺構の時期は特定し難い。
(伊藤)

12 第138-12次調査（6AN7）

調査場所 多気郡明和町斎宮字篠林3143-2（第3図）

原因 水道管新設（明和町）

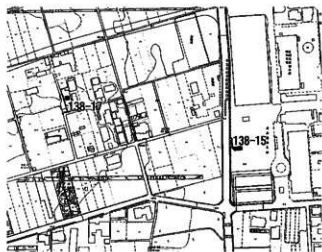
調査期間 平成14年8月2日

調査面積 0.8㎡

概況 史跡北部の県道に面した場所である。今年度を実施した第138-2次調査区の南西にあたる。現況は碎石の敷かれた駐車場である。

遺構と遺物 碎石の敷かれた地表面から約65cmで地山（黄灰色粘土）に達し、これが遺構面となる。狭い調査区であったが、奈良時代頃と考えられるピットを3基検出した。このうち南端のピットからは土器器甕の破片が出土している。

小結) 今回の調査区は、かつて実施された第76-13次調査の南側にあたり、今回と同様奈良時代頃の掘立柱建物や堅穴住居が検出されている。この近隣は奈良時代の遺構が比較的多い場所であり、古里地区から続く一連の遺構群であるとともに、方格地割成立前の斎宮を知るうえで重要な場所として改めて認識できる。(伊藤)



第6図 調査区位置図⑤ 138-15-17次調査(1:4,000)

13 第138-13次調査(6AK11, L11)

調査場所 多気郡明和町斎宮字広頭3385-2(第4図)

原因 斎宮小学校改修工事(明和町教育委員会)

調査期間 平成14年8月20日

調査面積 11㎡

概況) 史跡中央南部の斎宮小学校用地内である。小学校校舎建設時の発掘調査は、斎宮跡第15次調査として報告されており、四脚門などの平安後半期を中心とした良好な遺構が確認されている地帯である。遺構と遺物) 現地地表下約70cmで遺構検出面に達した。確認できた遺構は3基のピットである。そのうちの1基からは、第11図7に示した土器が出土した。出土土器は土師質土器(ロクロ土師器)の皿で、斎宮編年のⅢ-1・2期頃に相当するものである。(中野・伊藤)

14 第138-14次調査(6AP10)

調査場所 多気郡明和町斎宮字御館2969-4(第5図)

原因 発掘調査(明和町)

調査期間 平成14年8月27日

調査面積 22㎡

概況) 史跡中央部の、「斎宮跡歴史ロマン広場」東接した場所にあたり、史跡公園活用のための無料休憩所造成に伴い調査を行った。調査地点は方格地割御館ブロックに相当するが、この近隣は近世・近代の互用粘土探掘坑による攪乱が激しいところでもある。

遺構) 現況地盤から約1mは盛土で、その下に約20cmの旧表土を確認した。旧表土下には粘土探掘坑の攪乱土が50cm認められ、灰白色粘土(基盤層)に達した。探掘坑による攪乱のため、斎宮機能時代の遺構・遺物は見られなかった。(中野・伊藤)

15 第138-15次調査(6AR7)

調査場所 多気郡明和町斎宮字西前沖2604-5(第6図)

原因 住宅改築

調査期間 平成14年10月22~25日

調査面積 50㎡

概況) 個人住宅の新築工事に伴い、浄化槽設置部分を含む住宅周辺部分について、事前の発掘調査を行ったものである。調査の範囲は、南北13m、東西10.5mのL字状を呈する。調査前の標高は約9.5mである。

遺構と遺物) 表土(約20cm)直下の地山面で、検出を行った。遺構は掘立柱建物1棟、ピット3基である。掘立柱建物S B8721は、直径約30cmのピットが3基並ぶもので、柱間は約2.4mである。西側の延長線上に方形のピットがあり、柱間も一致するためもう1間のびる可能性があるが、非常に浅い落ち込み状のものであるため断定できない。掘立柱建物の時期は、斎宮Ⅲ期以降のものと考えられる。遺物は、土

師器・須恵器・灰釉陶器が出土している。

小結 史跡北部には、柱穴の小さな掘立柱建物など、中心部に比べ時期の新しい遺構が確認されていたが、今回の調査でも、同様の様相が確認された。

(水橋)

16 第138-16次調査 (6A012・P12)

調査場所 多気郡明和町斎宮字内山3020-1 (第5図)

原因 住宅建設

調査期間 平成14年11月1日

調査面積 4㎡

概況) 今回の調査は、合併浄化槽を設置する部分について、立会い調査を行ったものである。調査の範囲は、浄化槽埋設部分の東西約2.75m、南北約1.5mである。調査前の標高は約11.8mである。

遺構と遺物) 基本的な層位は上から盛土・茶褐色粘質土であり、現地表面から約0.8mの深さで地山に達した。遺構としてはピット4基である。出土遺物には、土師器皿・鍋、灰釉陶器碗の破片がある。

(水橋)

17 第138-17次調査 (6AQ6)

調査場所 多気郡明和町斎宮字楽殿2875-3 (第6図)

原因 住宅改築

調査期間 平成15年1月17日

調査面積 6.0㎡

概況) 調査地は、「斎王の森」の北東約200mの地点である。住宅建設に伴い、基礎が相当する1m×1mの地点を6箇所、立会い調査を行った。調査前の標高は約10.5mである。

遺構と遺物) 事業地が緩やかな斜面に当たると、調査前に盛り土がされていた。そのため、表土下にあたる黒色土を20cmほど開削するに止まり、遺構面にまでは達しなかった。

小結) 阪神淡路大震災後、耐震構造を備えた住宅の建設が盛んとなったが、今回の事例もそれに相当する。居住者の安全と史跡の保護とをどのように両立させていくのが大きな課題と感じられる。(伊藤)

18 第138-18次調査 (6AM11)

調査場所 多気郡明和町斎宮字広頭3381-7、3381-8 (第5図)

原因 住宅改築

調査期間 平成14年11月26日～12月3日

調査面積 55㎡

概況) 今回の調査は、個人住宅の建て替えに伴い、住宅周辺部分について、事前の発掘調査を行ったものである。調査の範囲は、南北12.5m、東西7.0mのL字状を呈する。調査前の標高は約12.3mである。

遺構と遺物) 表土(約20～30cm)直下の地山面で検出を行った。遺構は掘立柱建物2棟、土坑5基、溝1条である。

掘立柱建物S B8728は、東西2間以上×南北3間以上のもので、柱間は2.0m、主軸方位は、N4°Eである。掘立柱建物S B8729は、東西2間×南北2間以上で、柱間は東西2.0m、南北2.2mで、主軸方位はN4°Eである。調査区北側には、2棟の掘立柱建物と同様の埋土で、2.0m間隔のピット列があり、これも掘立柱建物か槽になる可能性がある。

良好な土坑はすべて南壁付近で検出された。いずれも南側の調査区外へ続く。土坑S K8723からは、土師器・緑釉陶器などが出土した。斎宮Ⅲ-1の時期に比定される。

溝S D8722は、検出面での幅1.4m、底面幅0.6m、深さ0.8mの逆台形を呈する南北溝である。方位は、検出できた長さが短いため、正確に出すことは難しいが、N10～12°Eである。S D8722からは、

土師器と山茶碗が出土した。土師器は、斎宮Ⅲ-1頃のものが多く出土しているが、土坑8724を壊して掘削されていることから、混入と思われる。あるいは、山茶碗は検出できなかったピットのもので、掘立柱建物がその時期に相当することも考えられる。

小結) 線路を挟んだ北側で1985年に行われた第59次調査では、平安時代の中期から末期の掘立柱建物や溝が確認され、それらの方位が $N 8 \sim 10^{\circ} E$ であることがわかっている。また、調査区のある畑地の西境の方位が $N 12^{\circ} E$ であり、いずれも今回の調査区で検出された溝S D8722の方位と類似する。さらに広い範囲をみると、周辺の小字界や農道、通称「奈良古道」の方位と同様の類似性を見て取ることができる。方格地割設定後も、方格地割以西の「奈良古道」は存続しており、周辺の地割に影響を与えていたと思われる。なお調査区は、想定している方格地割の西に近接するが、方格地割と同方向の遺構は確認されなかった。

(水橋)

19 第138-19次調査 (6 A O 13)

調査場所 多気郡明和町斎宮宇木葉山304-4-9-12-14~16 (第5図)

原因 建物増築

調査期間 平成15年1月21日

調査面積 4.5 m^2

概況) この調査は、合併浄化槽を設置する部分について、立会い調査を行ったものである。調査地は、史跡の南境付近に位置する。

遺構と遺物) 近世以降の瓦類や陶磁器の詰まった層があり、現地表面から約1.9m (標高約9.5m) で、部分的に基盤層に達した。斎宮段階の遺構・遺物は見られなかった。

(水橋・伊藤)

20 第138-20次調査

調査場所 多気郡明和町斎宮宇宮ノ前・上園・内山・塚山、竹川字中垣内 (第7図)

原因 基準点測量杭設置 (三重県教育委員会)

調査期間 平成15年1月15日

調査面積 1.8 m^2 ($0.6 \text{ m} \times 0.6 \text{ m} \times 5$ ヶ所)

概況) この調査は、史跡斎宮跡の調査で用いる測量杭を埋設する部分について実施したものである。埋



第7図 調査区位置図⑥ 138-20次調査 (1 : 6,000)

設範囲は60cm四方、深さ0.7mで、埋設位置は上記地内5ヶ所である。

遺構と遺物 旧竹神社の東側に位置する中垣内地点では、表土下約60cm（標高約12.5m）で基盤層に達した。その他の地点では、公園造成時等の盛り土内で収まっている。いずれからも、遺構は確認されなかったが、上園地点・塚山地点からは、土師器・須恵器・中世陶器（山茶碗）の小片が出土している。
(水橋・伊藤)

21 第138-21次調査（6A I 12）

調査場所 多気郡明和町竹川字東裏350（第4図）

原因 住宅建替

調査期間 平成15年3月10日

調査面積 3.7㎡

概況 史跡西部の旧参宮街道沿いで、旧街道からは約10m北に入った場所である。現況は、住宅改築に伴う盛土のなされた状況であった。

遺構と遺物 盛土下の黄褐色系土（第2層）は近世に堆積したもので、瓦・陶磁器・土師器焙烙などの18世紀代を中心とした遺物が見られる。第3層と第4層は明確には区分しにくい、第4層はいわゆる黒ボク2次堆積層に相当する。

遺構検出面は標高約13.1mで、礫混じり黄灰色系土層（地山）上面で行った。遺構には溝S D8730・S D8731がある。S D8730は幅約50cm、深さ10～20cmで、調査区を斜め方向に南北に延びるものである。遺物は少ないが、遺構埋土が良好な黒ボク土であること、わずかに出土した土器が奈良時代頃と考えられることから、奈良時代の範疇で考えてよい遺構である。S D8731は調査区と同じ方向に走る南北溝の西屑部分である。遺物は出土していないが、遺構埋土は安定しており、中世前期以降で、おそらく近世の遺構と考えられる。なおS D8731は、調査区の東にある現道と平行しており、この道に伴う道路側溝である可能性が高い。
(伊藤)

22 第138-22次調査（6A J 11）

調査場所 多気郡明和町竹川字東裏地内（第4図）

原因 水道管布設

調査期間 平成14年9月27日

調査面積 5.0㎡（長さ約7.0m×幅0.7m）

概況 今回の調査は、斎宮小学校西側の道に新たに水道管埋設するため、掘削する部分について立会い調査を行ったものである。

遺構 基本的な層位は上からアスファルト・砂利・置き土・黒褐色粘質土があり、現地表面から約0.65mの深さで地山に達した。掘削幅が狭いため、遺構の詳細は不明だが、堅穴住居1棟・土坑1基がある。堅穴住居S H8732は、黒褐色粘質土の埋土（深さ約15cm）で、下部には貼床らしき土が確認された。埋土中から土師器杯・甕が出土した。
(水橋)

遺物 第11図1～3はS H8732から出土した土器で、いずれも土師器である。1は杯B、2は杯A、3は甕である。杯類内面の暗文や口縁部の形態から、斎宮1～2期に相当するものと考えられる。(伊藤)

遺構遺構名	遺構の性格	次数	詳細遺構名	地区	グリッド	時期	奈良編年	遺構の性格・遺物・その他
S D 8696	区画溝	138-1	溝1	S12		奈良～平安	Ⅱ～?	方格地割溝溝か
S D 2595	大溝	138-2	溝1	N 6		近世		「ユウゼン堀」および「鎌倉大溝」の続き
S D 8697	溝	138-2	溝2	N 6		近世		
S D 8698	溝	138-2	溝3	N 6		平安以前か?		
S D 8699	溝	138-2	溝4	N 6		平安以前か?		
S D 8700	溝	138-2		N 6		近世?		強い
S D 8702	区画溝	138-3	溝1	T12		平安?	Ⅱ-2?	方格地割溝山山西ブロック南辺の道路側溝溝か
S D 8703	土坑群?	138-5	溝1	J12		近世		遺構院関係 近世陶磁器・瓦など多い
S D 8704	溝	138-5	溝2	J12		近世		遺構院関係か
S K 8705	土坑	138-5	土坑3	J12		奈良	I-3?	堅穴住居か? 埋土は黒色土
S H 8706	堅穴住居	138-5	堅穴住居4	J12		奈良	I-3	南部のみ遺存 壁間溝の遺存良好
S K 8707	土坑	138-5	土坑5	J12		奈良?		埋土は黒色土
S D 8708	溝	138-5	溝6	J12		近世		遺構院関係か
S D 8709	溝	138-5	溝7	J12		近世		遺構院関係か
S K 8710	土坑	138-5	土坑8	J12		奈良?		埋土は黒色土 土器少量
S K 8711	土坑	138-5	土坑9	J12		奈良	I-3?	土師器類 埋土は黒色土
S K 8712	土坑	138-5	土坑10	J12		平安	Ⅱ-2	埋土は黒色土 土師器類など
S K 8715	土坑	138-6	土坑1	K12		奈良	I	
S K 8716	土坑	138-6	土坑2	K12		近世		土師器類羽釜類豊富
S K 8717	土坑	138-8	落ち込み1	J13		近世		近世の瓦・土器類
S Z 8718	落ち込み	138-9	落ち込み1	T13		近世		土器少量
S D 8719	区画溝?	138-10	溝1	K13		平安以前	Ⅱ以前	方格地割溝溝に並行する溝
S E 8720	井戸	138-11	井戸1	Q13		平安?	Ⅱ以前	土器少量
S D 8722	溝	138-18	溝1	M11	i・j19・20	平安以降	Ⅱ-1～	山茶碗片もあり
S K 8723	土坑	138-18	土坑2	M11	i20	平安後期	Ⅱ-1	土器片多い
S K 8724	土坑	138-18	土坑3	M11	j20	平安以前	Ⅱ-1	
S K 8725	土坑	138-18	土坑4	M11	j20	平安以降	Ⅱ-1	S K 8723の続きで溝になるか?
S K 8726	土坑	138-18	土坑5	M11	i18	不明		攪乱か
S K 8727	土坑	138-18	土坑6	M11	i17	不明		攪乱か
S D 8730	溝	138-21	溝1	i12		奈良?		土器少量
S D 8731	溝	138-21	溝2	j12		近世		瓦片
S H 8732	堅穴住居	138-22	堅穴住居1	J11		奈良	I-2	土器良好
S K 8733	土坑	138-22	土坑2	J11		奈良	I	

第2表 第138次調査 遺構一覧表

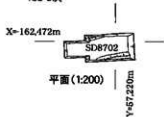
遺構番号	次数	地区	グリッド	ピット番号	ピット遺物の時期	建物時期	面積(m)×長さ(m)	柱間(東西-南北)	方位(傾斜)	備考	
S88701	138-2	N 6	b 4	m75	m75…Ⅰ頃	Ⅰ	1(2.4)×2(4.0)	2.4-2.1	東西	N2°W	ピットは布張り状
S88713	138-5	J12		(ピット遺物なし)	(ピット遺物なし)	1?	2(3.4)×1(1.2)~	1.7-1.3	南北	N3°E	S H 8706より新
S88714	139-5	J12		(ピット遺物なし)	(ピット遺物なし)	1?	1(0.8)×1(1.0)~	1.8-1.8	不明	N3°W	S H 8706より新
S88721	138-15	R 7	a 9	p 1	p 1…Ⅱ以降	Ⅱ?	2(4.0)×?	2.4-?	東西?	N4°E	東西柱列のみ
S88728	138-18	M11	i20	p 1-3	p 1…Ⅱ以降	Ⅱ?	2(4.0)×3(6.2)	2.8-2.1	南北?	N4°E	
			j20	p 1	p 1…Ⅱ以降						
			i19	p 1-3-5	p 5…Ⅱ以降						
S88729	138-18	M11	i19	p 2-4		Ⅱ?	2(4.2)×2(3.0)	2.1-1.9	東西?	N4°E	

第3表 第138次調査区掘立柱建物一覧

138-1次



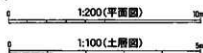
138-3次



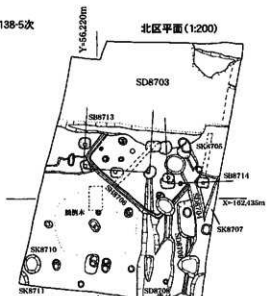
138-3次東壁土層(1:100)



1. 砕石(現代)
2. 10YR3/4 盛土(現代)
3. 10YR2/2 黒褐色土、土器含む
4. 10YR2/3 黒褐色土



138-5次



南区平面(1:200)



南区南壁土層(1:100)



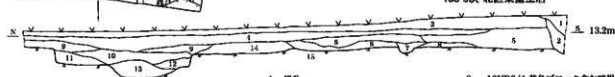
1. 砕石(現代)
2. 砕石十盛土(現代)
3. 赤色粘土まじり暗褐色(副葬~近代)
4. 暗褐色土(近世)
5. 上層含む黒色土(平安)

北区SH8706土層(1:100)



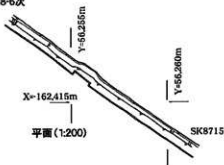
1. 10YR2/1 黒色土
2. 10YR4/2 灰黄褐色土
3. 貼床 黄褐色粘土含む明黄褐色土
4. 黄色ブロックまじり黒褐色土(ピット)

138-5次 北区東壁土層

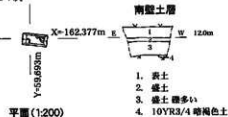


1. 攪乱
2. 攪乱
3. 表土
4. 10YR4/2 砂礫多い灰黄褐色土
5. 5YR4/2 灰褐色土
6. 10YR3/2 黒褐色土
7. 5YR4/4 赤褐ブロック含むにぶい赤褐色土
8. 10YR2/1 黒色土黄褐ブロック入る
9. 10YR3/4 黄色ブロック含む暗褐色土
10. 10YR4/3 礫・異物多いにぶい暗褐色土
11. 10YR4/3 礫含むにぶい黄褐色土
12. 10YR5/3 礫多いにぶい黄褐色土
13. 10YR4/4 礫多い褐色土
14. 10YR1.7/1 黒色土(古灰)
15. 10YR6/8 明黄褐色粘土(基礎層)

138-6次



138-7次

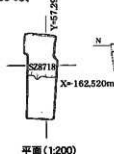


南壁土層

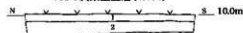


1. 表土
2. 盛土
3. 盛土 礫多い
4. 10YR3/4 暗褐色土

138-9次

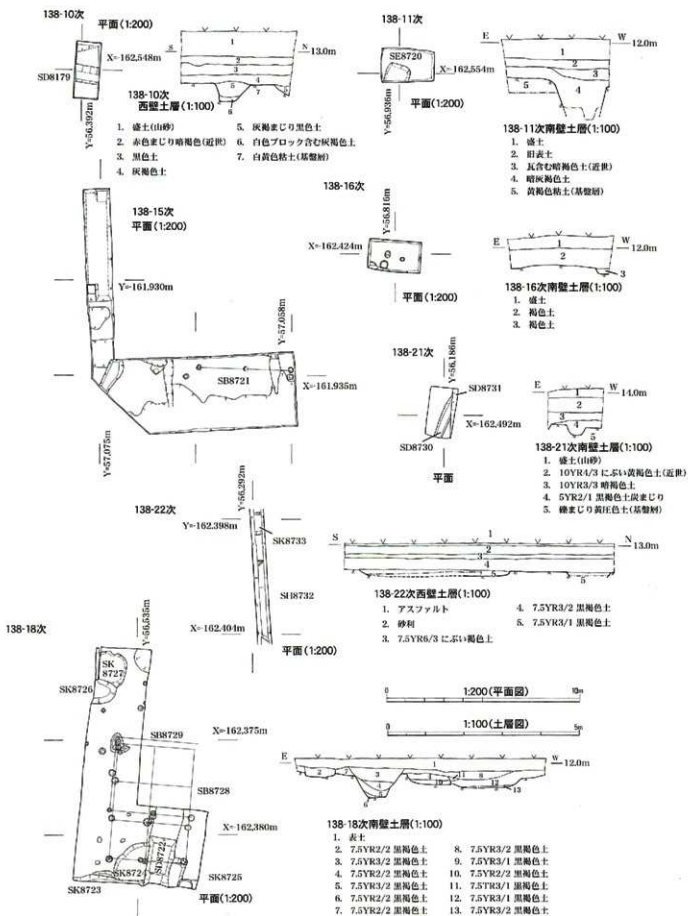


138-9次東壁土層(1:100)

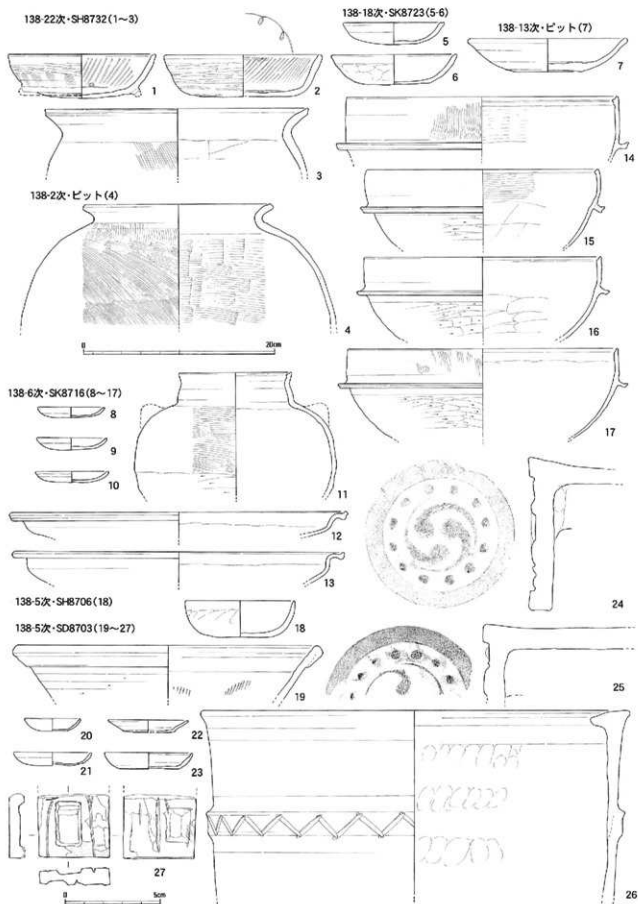


1. 表土
2. 暗褐色土(近世)
3. 明黄褐色粘土(基礎層)

第8図 第138次調査区遺構図①(平面図1:200、土層断面図1:100)



第10図 第138次調査区遺構②(平面図1:200、土層断面図1:100)



第11図 第138次調査区出土遺物 (1 : 4、27のみ1 : 2)

No.	出土位置 層位・遺構	種類	寸法 (cm)	調査・技法の特徴	胎土	肌色	色調	残存度	備考	発掘地
1	138-122次 S H8732 竪溝	土師器 杯B	口縁 15.5	外: ハケメーヨコナデニガキ 内: ナデー斜紋刺・線刻陶文	密	良好	黄 5 YR6/8	口縁6/12		7-4
2	138-72次 S H4732 竪溝	土師器 杯A	口縁 16.7 器高 4.4	外: ナデーヨコナデニガキ 内: ナデー斜紋刺・線刻陶文	密	良好	黄 5 YR6/8	口縁4/12		7-5
3	138-72次 S H8732 北平	土師器 葉	口縁 27.5	外: ハケメーヨコナデ 内: 板ナデーヨコナデ	密	良好	にぶい黄褐色 18 Y R 7/4	口縁1/12	底部外周は生掛け	7-8
4	138-1次 S H111	土師器 葉	口縁 19.8	外: ハケメーヨコナデ 内: ハケメーヨコナデ	粗	やや軟	にぶい黄褐色 18 Y R 7/4	口縁3/12	外壁は下部のハケメが後に磨される	1-1
5	138-18次 S K4723	土師器 小皿	口縁 10.8 器高 2.3	外: オサエ・ナデーヨコナデ 内: ナデーヨコナデ	粗	やや軟	黄 2.5 YR 6/4	劣存		7-2
6	138-18次 S K4723	土師器 皿	口縁 13.2 器高 3.1	外: オサエ・ナデーヨコナデ 内: ナデーヨコナデ	粗	やや軟	黄 2.5 YR 6/2	口縁7/12		7-3
7	138-12次 S H12	土師器土師 皿	口縁 16.5 器高 4.4	外: 回転ナデー片切り 内: 回転ナデ	密	軟	灰白 2.5 YR 7/2	口縁4/12 底縁12/12		7-1
8	138-8次 S K4716	土師器 小皿	口縁 7.8 器高 1.1	外: オサエ・ナデーヨコナデ 内: ナデーヨコナデ	密	良好	黄 5 Y R 6/6	口縁7/12	近世南伊勢系	5-5
9	138-8次 S K4716	土師器 小皿	口縁 7.4 器高 1.2	外: オサエ・ナデーヨコナデ 内: ナデーヨコナデ	密	良好	黄 5 Y R 6/6	劣存	近世南伊勢系	5-4
10	138-8次 S K4716	土師器 小皿	口縁 7.8 器高 1.1	外: オサエ・ナデーヨコナデ 内: ナデーヨコナデ	密	良好	黄 7.5 YR 6/6	口縁8/12	近世南伊勢系	5-6
11	138-6次 S K4716	土師器 高蓋	口縁 11.8	外: ハケメーヨコナデ・ケズリ 内: ナデーヨコナデ	密	良好	黄 5 YR6/8	口縁11/12	近世南伊勢系	8-4
12	138-6次 S K4716	土師器 燈台	口縁 35.8	外: ナデーヨコナデ 内: 板ナデーヨコナデ	密	良好	黄 5 Y R 6/6	口縁1/12	近世南伊勢系	8-2
13	138-6次 S K4716	土師器 燈台	口縁 34.8	外: ナデーヨコナデ 内: ナデーヨコナデ	密	良好	黄 5 Y R 6/6	口縁1/12	近世南伊勢系	8-3
14	138-5次 S K4716	土師器 羽蓋	口縁 28.4	外: ハケメ・ヨコナデ 内: 板ナデーヨコナデ	密	良好	黄 5 Y R 6/6	口縁1/12	近世南伊勢系 外面に灰	6-1
15	138-5次 S K4716	土師器 羽蓋	口縁 24.1	外: ナデーヨコナデ・ケズリ 内: 板ナデーヨコナデ	密	良好	黄 5 YR6/8	口縁4/12	近世南伊勢系 外面に灰	5-3
16	138-5次 S K4716	土師器 羽蓋	口縁 24.8	外: ナデーヨコナデ・ケズリ 内: ナデーヨコナデ	密	良好	明赤褐色 5 YR5/6	口縁7/12	近世南伊勢系 外面に灰	5-1
17	138-5次 S K4716	土師器 羽蓋	口縁 28.2	外: ハケメ・ナデーヨコナデ・ケズリ 内: 板ナデーヨコナデ	密	良好	黄 5 YR6/8	口縁11/12	近世南伊勢系 外面に灰	5-2
18	138-5次 S H8786	土師器 杯G	口縁 11.5 器高 3.8	外: オサエ・ナデーヨコナデ 内: ナデーヨコナデ	密	良好	にぶい黄褐色 18 Y R 7/4	口縁3/12		2-7
19	138-5次 S D4783	陶器 燈鉢	口縁 32.6	外: 回転ナデー回転ケズリ 内: 回転ナデー磨り目	密	堅硬	黄: にぶい赤褐色 5 Y R 4/3	口縁3/12	瀬戸本瓦焼	2-6
20	138-5次 S D4783	土師器 小皿	口縁 5.8 器高 1.4	外: オサエ・ナデ 内: ナデ	密	良好	黄 5 YR6/8	口縁6/12	近世南伊勢系 口縁部に油塗痕	2-1
21	138-5次 S D4783	土師器 小皿	口縁 8.1 器高 1.5	外: オサエ・ナデーヨコナデ 内: ナデーヨコナデ	密	良好	黄 5 Y R 6/6	口縁6/12	近世南伊勢系	2-3
22	138-5次 S D4783	土師器 小皿	口縁 8.4 器高 1.3	外: オサエ・ナデーヨコナデ 内: ナデーヨコナデ	密	良好	黄 5 Y R 7/4	口縁7/12	近世南伊勢系	2-2
23	138-5次 S D4783	土師器 小皿	口縁 9.2 器高 1.7	外: オサエ・ナデーヨコナデ 内: ナデーヨコナデ	密	良好	黄 5 YR6/8	口縁7/12	近世南伊勢系	2-4
24	138-5次 S D4783	瓦当 目	15.8	瓦当面: 三ツ巴文。外縁部を磨取りする 瓦瓦脚: ナデ・ケズリ	密	良好	灰 4/0	瓦当面 ほぼ劣存		4-1
25	138-5次 S D4783	瓦当 目	16.8	瓦当面: 三ツ巴文。外縁部を磨取りする 瓦瓦脚: ニガキ 瓦瓦脚部: コビキ焼	密	良好	灰 4/0	瓦当面 4/12		4-2
26	138-5次 S D4783	陶器 筒	口縁 45.1	外: ナデーヨコナデ。9方に蓮華状の押捺陶文 内: オサエ・ナデーヨコナデ	密	堅硬	暗赤灰 7.5 R 3/1	口縁2/12	近世南伊勢	3-1
27	138-5次 S D4783	石製 小形模造品	径長 3.8	磁石の破片を模写 ニニテア版の未製品			にぶい黄褐色 10 Y R 6/4	劣存	足取痕	2-5

第4表 第138次調査 出土遺物観察表

付篇 平成14年度史跡現状変更等許可申請

平成14年度中の史跡現状変更等許可申請は、39件提出された。このうち発掘調査を行ったのは、史跡の実態解明のための計画発掘調査が3件、個人や公共事業の現状変更に伴うものが22件（うち第138-1～4・8・11次調査の6件は前年度申請分）あった。

そのほかは、宅地敷地内における個人住宅の建設など小規模であったり、工事が簡易で地下遺構に影響を及ぼさないものである。なお、基礎掘削工事にあたっては斎宮歴史博物館並びに明和町斎宮跡課職員の立会いを実施している。

14年度の申請の内容は、一覧表（第5表）のとおりであり、これらの申請を(A)個人等から申請されるもの、(B)公共機関等による地域の生活環境整備に伴うもの、(C)史跡環境整備および維持管理等に伴うもの、(D)史跡実態解明のための計画発掘調査実施の申請に分けることができる。

(A) 個人等による申請

個人等による申請は19件あった。そのうち事前の発掘調査が必要であったのは9件で、その内容は個人住宅等の新築及び改築・浄化槽の設置（第138-9・10・15～19・21次調査）が8件、竹川自治会公民館の改築等（第138-5次調査）である。なお、2件については、申請時期が年度末であったため来年度の調査とした。

他の8件については、カーポートや擁壁の設置、住宅の除去で土地利用区分の第四種保存地区にあたり、工事立会い等の条件付許可により、史跡に影響を及ぼすことなく施工している。

(B) 公共機関等による地域の生活環境整備に伴う申請

この申請は13件の提出があった。その内容は、農業用水路側溝や水道管の改修等が6件、電柱等の布設が6件、斎宮小学校のバリアフリー化に伴う改修などである。この内調査対象となったものは、上水道管埋設（第138-6・12・22次調査）と斎宮小学校改修（第138-13次調査）、支線の設置（第138-7次調査）の5件で、次年度工事となった1件以外は工事立会いで着工している。

(C) 史跡環境整備および維持管理等に伴う申請

史跡の整備及び活用に伴う申請は4件あった。その内容は、史跡斎宮跡の見学者対策に伴う休憩所の設置及びそれに伴う発掘調査、史跡管理用機械の車庫、発掘調査に必要な基準点測量杭の設置である。

(D) 計画発掘調査のための申請

これは、三重県教育委員会が主体となり、斎宮歴史博物館が実施しているもので、3件の申請が提出され、1,252㎡が調査された。これらの内容については斎宮歴史博物館から別途調査概報が刊行される。

(中野教夫)

	申請地	種別	申請者	変更内容	申請日	許可日	変更面積	区分	備考
1	竹川字東裏・中垣内地内	B	明和町(上下水道課)	水道管改修	14.3.20	14.5.17	L=659.4m	3	第138-6次調査
2	竹川字南裏210	A	個人	擁壁設置	14.4.9	14.5.17	40m	3	
3	竹川字東裏343-3	B	中部電力株式会社 松阪営業所	電柱新設	14.4.5	14.4.16	1本	3	
4	斎宮字御船2974	A	個人	カーポート設置	14.4.16	14.5.2	1棟	4	
5	竹川字東裏227-3	A	竹川自治会	プレハブ建物建築等	14.4.17	14.6.21	72.6㎡	3	第138-5次調査
6	斎宮字西加地2717-3,7	D	三重県教育委員会	発照(計画)調査	14.5.2	14.6.11	460㎡	1	第136次調査
7	竹川字南裏259	A	個人	浄化槽設置	14.5.2	14.6.21	1基 (3.5㎡)	4	第138-10次調査
8	斎宮字下置2810-3	C	(財)国史跡斎宮跡保存協会	庫庫設置	14.5.8	14.6.21	16.3㎡	1	
9	斎宮字広瀬3385-2	B	明和町教育委員会 (学校教育課)	斎宮小学校改修工事	14.5.9	14.6.21	22㎡	4	第138-13次調査
10	斎宮字中西603	A	個人	浄化槽設置	14.5.14	14.6.21	1基 (2.5㎡)	4	第138-9次調査
11	斎宮字内山3020-1 3045-3	B	近畿日本鉄道株式会社 名古屋営業局施設部電気課	支線設置	14.5.17	14.5.23	2本	3	第138-7次調査
12	斎宮字内山3020-1	A	個人	住宅建築	14.5.29	14.6.28	97.23㎡	4	第138-16次調査
13	竹川字東地内	B	明和町(上下水道課)	水道管布設	14.6.10	14.7.24	L=70m	3	第138-22次調査
14	斎宮字種林3143-2	B	明和町(上下水道課)	水道管新設	14.6.13	14.7.24	L=2m	3	第138-12次調査
15	竹川字中垣内430-1	B	中部電力株式会社 松阪営業所	防犯灯電柱新設	14.6.14	14.7.5	1本	3	
16	斎宮字牛鹿地内 斎宮字広瀬地内	B	明和町(上下水道課)	既設水道管改修	14.6.20	14.7.5	L=32m	3	
17	竹川字鍛冶山2740-7	B	近畿日本鉄道株式会社 名古屋営業局施設部電気課	支線設置	14.7.8	14.7.22	1本	3	
18	竹川字中垣内3383ほか9筆	D	三重県教育委員会	発照(計画)調査	14.7.25	14.8.9	700㎡	3	第137次調査
19	斎宮字御船2969-4	C	明和町(斎宮課)	発照調査	14.7.31	14.8.26	22㎡	1	第138-14次調査
20	斎宮字牛鹿3014	A	牛鹿自治会	擁壁設置等	14.7.29	14.8.26	L=15.544m	4	
21	斎宮字西前沖2604-5	A	個人	住宅改築	14.8.13	14.9.20	84.54㎡	4	第138-15次調査
22	斎宮字塚山3338-1	A	個人	地中盤設置	14.8.14	14.9.20	31.4m		
23	斎宮字広瀬3381-7,8	A	個人	住宅改築	14.8.19	14.9.20	97.71㎡	3	第138-18次調査
24	斎宮字下置2926-16	C	明和町(斎宮課)	休憩施設建設	14.8.28	14.9.20	280.07㎡	1	第142-1次調査
25	斎宮字楽殿2875-3	A	個人	住宅改築	14.9.26	14.10.23	69.87㎡	4	第138-17次調査 第142-15次調査
26	竹川字蔵戸地内	B	竹川自治会	側溝改修	14.9.26	14.10.23	L=182m	3	
27	竹川字東裏350	A	個人	住宅建築	14.10.23	14.12.6	59.56㎡	4	第138-21次調査
28	斎宮字木葉山 竹川字南裏	B	明和町(上下水道課)	水道管布設	14.10.28	14.12.6	L=220.1m	3	第142-2,3次調査
29	斎宮字西前沖2632-1	A	個人	建物除去	14.11.14	14.12.20	50.59㎡	4	
30	斎宮字楽殿地内	B	中部電力株式会社 松阪営業所	電柱・支線新設	14.11.22	14.12.11	1本	3	
31	斎宮字木葉山304-4他5筆	A	個人	建物増築	14.12.12	15.2.4	45.19㎡	4	第138-19次調査
32	斎宮字塚山3310,3349 字広瀬3569 竹川字東裏315	D	三重県教育委員会	発照(計画)調査	14.12.24	15.1.24	92㎡	1	第139次調査
33	斎宮・竹川地内	C	三重県教育委員会	基準点測量杭の設置	14.12.27	15.1.10	5ヶ所	1	第138-20次調査
34	斎宮字西前沖2632-1	A	個人	住宅増築	14.12.24	15.1.24	83.63㎡	4	
35	斎宮字西前沖2604-49	A	個人	道路造成	15.2.10	15.6.20	313.91㎡	4	第142-5次調査
36	斎宮字東前沖2487-5	B	中部電力株式会社 松阪営業所	電柱移設	15.2.14	15.3.5	1本	4	
37	竹川字東裏277ほか2筆	A	竹川自治会	公民館改築等	15.3.6	15.4.18	333.27㎡ 鳥居1基	4	第142-7次調査
38	竹川字蔵戸740-1	A	個人	倉庫設置	15.3.7	15.4.11	64.85㎡	4	
39	斎宮字中西589	A	宗教法人 宗安寺	庫裏改築	15.3.12	15.4.18	93.33㎡	4	

第5表 平成14年度現状変更等許可申請一覧表

報 告 書 抄 録

ふりがな	しせきさいくうあと へいせい14ねんどげんじょうへんこうきんきゅうはつくつちようさほうこく							
書名	史跡齋宮跡 平成14年度現状変更緊急発掘調査報告							
副書名								
巻次								
シリーズ名	三重県多気郡明和町齋宮跡埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	20							
編著者名	伊藤裕偉、中野敦夫、泉 雄二、水橋公恵							
編集機関	齋宮歴史博物館（調査研究グループ）・明和町（齋宮跡課）							
所在地	〒515-0332 三重県多気郡明和町大字馬之上945 Tn0596(52)7126							
発行年月日	2004年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
齋宮跡	多気郡明和町 齋宮・竹川	24442	210	34度 31分 35秒 ～ 34度 32分 30秒	136度 36分 16秒 ～ 136度 37分 37秒	20010401～ 20020330	全22件 合計 760㎡	史跡現状変更に伴う緊急発掘調査 (史跡齋宮跡第138次調査)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
齋宮跡	官衙	奈良 平安 鎌倉 近世以降	堅穴住居 掘立柱建物 区画溝 区画溝・井戸 掘立柱建物 溝 溝（寺院関係）	土師器・須恵器 土師器 陶器（山茶碗） 瓦・陶磁器・土師器		第138-5・22次 第138-2次 第138-10次 第138-3・11・18次 ほか 第138-18次ほか 第138-5次 (還恩院跡)		

图 版



第138-2次 全景（北から）



第138-2次 北部（南から）

図版 2



第138-2次 SD2505土層（西から）



第138-5次 北区全景（北から）



第138-5次 北区（北西から）



第138-5次 SH8706（東から）

図版 4



第138-5次 南区（北から）



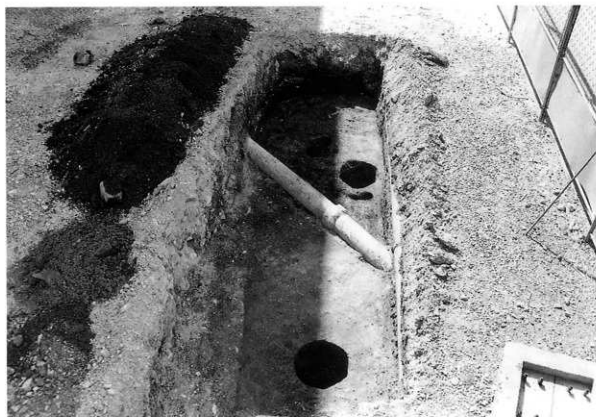
第138-9次 全景（南西から）



第138-10次 土層（北東から）



第138-11次 全景（北東から）



第138-13次 全景（東から）



第130-14次 全景（西から）



第138-15次 全景（西から）



第138-15次 南部（東から）



第138-18次 南部（北東から）



第138-18次 SD8722土層（北から）

史跡 齋宮跡

平成14年度

現状変更緊急発掘調査報告

平成16(2004)年3月25日

編 集 齋宮歴史博物館
明 和 町

発 行 明 和 町

印 刷 光出版印刷株式会社
